

指導教諭 K.M

10月7日（土）午前9時15分、1年生は各自の受講教室集合。第1回と同じく無断欠席なし。そして、9時30分授業開始のチャイムが鳴った。

10月13日（金）、2020年度に始まる大学入学共通テストの英語について、国立大学協会が現行のマークシート式問題と民間の資格・検定試験の両方を受験生に課す方針を固めた。共通テストの英語は2024年度から民間の資格・検定試験に全面移行する。実用英語技能検定（英検）やGTEC、TOEICなどの採用が検討されている。国大協は民間試験の結果を一定の基準で点数化し、マーク式の得点に加算するなどの方法を想定している。

共通テストは知識偏重ではなく思考力や判断力を問うために導入される。現行のセンター試験はマーク式のみだが、国語と数学で記述式問題を導入する。英語は「読む、聞く、話す、書く」の4技能を測るため民間試験を活用する

私感ではあるが、英検は準一級と二級との差が大きい、TOEICは本来ビジネスの場面での英語力を判定するものであることを考えると、現時点では「GTEC」に近いものが採用される可能性が高いと思う。「GTEC」は、学習指導要領に沿った出題内容で英語を使う力を多角的に測定するスコア型英語4技能検定。特に、スピーキングテストは「正確な発音で音読する」「英語の質問を聞き取って適切に応答する」「状況を説明して相手に伝達する」「自分の意見や理由を英語で表現する」の4つの話す力を測定する。生徒ひとりひとりがタブレット端末を使って解答し、多人数が同時に受検できる。

immersion seminarである「学内留学」はまさに、この4つの話す力を養うことを狙いとしている。平常の英語授業で自らの英語運用能力を高め、北野高が提供している自らの言葉として英語を用いる場面に臨み、自己発信力を磨いて欲しい。



中学生と保護者の見学風景



教育学担当 ピーター先生



ビジネス学担当 ランス先生



心理学担当 クレイグ先生



天文学担当 ジョッシュ先生



環境学担当 ノエル先生

A講座 Education Course（教育学講座）by Mr.Peter Vande Veire

1年1組 E.A

1) 授業内容

1コマ目は、前回の復習と、宿題であったVAKについてのスピーチをペアで行いました。原稿を見ずに話せるよう、何回も練習しました。2コマ目は、知らない単語とその説明が書かれたプリントが配られ、グループで簡単な英語で説明する方法を考えました。その後、他の単語に当たった人とグループを組み、それぞれ説明した後1枚の紙にdiagramを作りました。3コマ目はintelligenceについての講義を受けました。人間の知性は8種類あり、人それぞれに合った知性の伸ばし方があることを学びました。4コマ目は、3コマ目を踏まえ、自分が先生になった時にどんな授業をするのかを具体的にグループで考えました。5コマ目は考えた授業の内容を他のグループに発表し、なんとという知性にどのような点で効果的があるのかを理由と共に詳しく説明しました。

2) 感想

2コマ目でグループ活動を始めた時には、正直自分のやっていることが教育学とどんな関係があるのか疑問が浮かびましたが、後にVAKスタイルと連動していることを知り、実際の学校の授業の中でも知らず知らずのうちにVAKスタイルが組み込まれているのではないかと驚きました。また、自分たちで授業を作るという課題は、一連の授業の流れの中でどうやって内容を組み合わせるかを考える

のが難しかったです。しかし、人によって考える内容が異なり、様々な視点から知性を見つめることができ、興味深かったです。宿題になっているスピーチでは、北野高校で行われている授業の内容について、講座の内容からどんな効果があるといえるのかを述べるので、先生目線で教育を考えることができ、普段の授業も今までとは違う新しい見方ができて大変有意義な時間を過ごせました。

B講座 Business Course (ビジネス学講座) by Mr. Lance Domotor

1年5組 H.T

1) 第2回の5時間それぞれの授業内容

まず1限目ではビジネス学を学ぶにあたり必要な語彙の確認を行った。単純なテストで確認するのではなく、クロスワード形式で単語を確認したのち早押しクイズ形式で行った。続いて、2限目から5限目までは出されていた課題の確認及び説明がなされた。課題はカメラやランドセル、車などの製品に関する英語の新聞記事を読み、それぞれの製品の長所を掘り出すことだった。授業ではそれらの製品のターゲットや、製品の変化と政府の関与など本格的なビジネス学に触れた。例えば、4限目ではマイクロコンパクトカーという新たな区分の自動車に関する記事をもとに授業がすすめられた。政府がマイクロコンパクトカーという新たな区分を作ることで、自動車メーカーがその開発を進め、顧客である我々のもとに届く。この流れの中で様々なビジネス環境が互いに影響を与え合っていることについて講義がなされた。また、各時間の最初に数名ずつが各々の紹介したいものについて、全員の前でプレゼンテーションをした。紹介するものの特徴を3点話すのだが、その際にキューカードと呼ばれるキーワードのみが書かれたメモを持つことで、アイコンタクトの大切さを感じさせられた。

2) 授業の感想

全く知らない学問を習得しきったとは到底言えない言語で学ぶことへの不安はあったが、受けるにつれて楽しさへと変わっている。なぜなら先生は理解できるようにかみ砕いて説明してくださるし、友人に聞くことでさらに理解を深めることができるため、わからないという不安がなくなってきたからだ。ビジネス学という学問が興味深いのは言うまでもないが、さらに先生の話も興味深いので、学内留学を受けてよかったと感じている。

C講座 Psychology Course (心理学講座) by Craig Boobyer

1年4組 O.R

学内留学の特色は大きく2つだと思う。1つは講師がネイティブであること。実際に使われている表現を学べるだけでなくネイティブと直接話す貴重な機会を得られる。もう1つは純粋に講義が面白いこと。学内留学は50分×5時間あるが飽きが来ない。講義は学問書を読んでいるかのように知的好奇心を満たしてくれる。とはいえ、学内留学の主役は講師ではなく自分。積極的に授業に参加し、発言するほど、より濃密な時間を過ごすことが出来ると思う。

第二回学内留学の1時間目は、生徒各自が調べてきたスーパー、コンビニの工夫を話し合ったのち、先生が見つけた工夫の紹介へ移った。生徒間では浮かばなかった着眼点ばかりで聞き応えたっぷりだった。

2時間目は宿題で調べたことをグループ内で一人ずつプレゼン発表をした。原稿はちらっと見るのに留めて視線を聞く人に向け、立って発表するようにという先生の指示を聞き、学内留学は人前に立つ度胸を試す場でもあると感じた。

3時間目はパヴロフの犬の説明を聞いたあと、4時間目にかけて他にどんな実験が行えるか生徒同士で話し合ったり、自分たちで実験を試したりした。

5時間目は有名な企業の広告で講義の内容がいかに活用されているか確かめた。学内留学では講師からの不意の質問に即座に答えたりグループで意見を発表したりと、英語をしゃべる機会に溢れている。ただの日常会話のはずだが、話そうとするたび思うように伝えられないどかしさを覚える。問題を解く力とは全く異なる、相手に伝わるように文章を組み立てる力が必要だからだろう。学内留学は、英語力と発信力を養う絶好の機会！すこしでも早く、さらりと英語を使いこなせるようになるため、次回もどんどん声を出していきたい。

D講座 Astronomy Course (天文学講座) by Mr. Josh Glaser

1年4組 O.S

第二回の学内留学は、前回の復習と太陽系に関する新しい知識を習った。

一限目は、太陽系に関する復習プリントを解いた。英語で書かれた特徴をもとに、その特徴をもつ惑星の名前を答える問題で、隣の人と話し合いながら解いた。

二限目は、Team Teachingということをした。第一回の授業で先生が40人を7グループに分け、それぞれに異なった太陽系に関するお題を与えた。(ちなみに私のグループのお題はMessengerという水星探査機だった。)そして、宿題として第二回の授業までにそのお題について調べてくるよう言った。二限目のTeam Teachingでは、調べてきた内容をグループのメンバーと共有してまとめた後、ほかのグループに発表するというところをした。このとき気をつけることとして、相手が分かるような簡単な英語を使うということをおぼわした。

三限目は、太陽系の起源についての授業だった。スクリーンに映し出された内容や先生の説明をノートにとるのだが、このとき、専門用語が沢山出てきたり、とにかく情報量が多いので、常に集中して耳を傾けながら手を動かしていないとおいていかれてしまい、大

変だった。

四限目は、三限目の続きをした後、第二回で新しく習ったことをグループで確認し合った。それから第三回までにする宿題が配られた。今回のお題は太陽系の破片についてで、私たちのグループは太陽系の二つの彗星について調べることになった。

五限目はグループワークで、この与えられたお題に関する参考資料をもとに話し合いながら宿題を進めた。

学内留学を二回受けて感じたことは、英語で聞いて英語で書いて英語で理解するというのはとても楽しいということだ。日本にいてこんな経験ができるのはとても貴重なことだと思う。天文学は難しい上に進むのが速いが、先生は質問の機会を多くとってくれるし、説明も丁寧にしてくれて、天文学の面白さがよく伝わるので、残りの回も天文学を英語でおもいっきり楽しみたい。

E講座 Environmantal Science Course (環境学講座) by Mr. Noel Slattery

1年1組 T.M

第二回環境学の授業では、前回水について学んだので、水に関することについてプレゼンを作ってくるという宿題が出ていました。もちろんプレゼンは、使うパワーポイントも、説明するのも全て英語です。近くの席の2, 3人でプレゼンを作ってきていて、当日さらに近くのチームとくっつけて『会社』を作りました。発表の流れは次のとおりです。

まず会社内で相手チームに説明し、意見交換をし合ってよりよいプレゼンになるよう改善する。そして全体に発表し、質疑応答タイム。どのチームもしっかり作ってきていたので、全て終わらせるのに5限の最初までかかりました。先生は、どのプレゼンも熱心に聴いてたくさんメモをとっていて、発表後には講評がありました。各チームが調べてきた内容についてさらに深めるための説明もしてくれましたが、それ以上にプレゼンのスキルについて、たくさん教えていただいた気がします。顔を原稿で隠さない、声は大きくはっきりと、などはもちろんですが、見やすいパワーポイントの作り方や黒板に書きながら説明する方法まで、様々なことを教わりました。

これからたくさんプレゼン発表をすることになる私達にとって、為になることばかりでした。発表は、会社名を決め、始めに「私達は〇〇会社から来た者です。」という言葉を入れて行ったのですが、実際企業に勤めている気分になれてとても楽しかったです。「日本語でのプレゼン発表にもまだ全然慣れていないのに、英語でやるなんて無理。」当初私はそう思っていました。しかし先生は、絶対にそれぞれの良かったところを述べてくださったので、大きな自信につながりました。私は学内留学に憧れて北野に入ったのですが、授業を受けることで英語力以外にもつく力はたくさんあり、とって本当に良かったです。

5限の後半は次のプレゼンのテーマに関するビデオを見ました。今回の授業を生かして、次はもっと良いプレゼンを作れるよう頑張ります。